

16

WalkBoston

—— ボストン、マサチューセッツ州、米国
1990年～

市民・行政が連携して実現したWalkability
(ウォーカビリティ)の向上

Key Issue

マサチューセッツ州ボストンでは、車の事故が大きな社会問題となっていた。そうしたなか、マサチューセッツ州で働いていた4人の都市計画の専門家が、自動車中心の交通社会において、歩行者を守るといった基本的な視点がなにかの問題を訴え、米国で初めて歩行者を守るためのアドボガシー・WalkBoston（権利擁護団体）を設立（1990年）した。それ以降の30年の間に類似の取組みは米国内に広く普及し、1996年にはWalkBostonの創設者2人によって米国全てを対象としたAmerican Walkも誕生した。特に近年、WHOが、世界各地で車の事故による死亡事故が135万人（2018年発表）にも上ると警告を出したことから、米国内で人々の安全な歩行への関心は高まりをみせ、大きな都市課題になっている。

Project Approach

市民と行政の協働によるウォーカブルなまちを実現

WalkBostonでは、住民等からの依頼や要望に応じて各地域に現地観察に赴き、問題把握、改善策の提案、行政機関や議員等との協議といった活動を展開している。その提案は、自動車の速度抑制策、道路の歩行環境の充実、安全な照明設置など、歩行者保護の視点からの様々な措置であり、実践的であることに特徴がある。問題発掘は、まちで生活する住民からのアプローチであり、WalkBostonでは、住民参加のミーティング活動を重視している。



市民から報告があった、問題のある歩道について行政機関や議員等の関係者とともにwalkabilityという指標を用いて確認を行う。
出典：WalkBoston



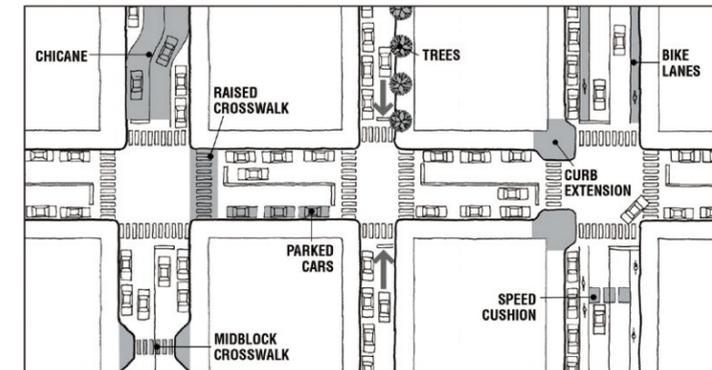
双方向セミナー。毎週各地で実施され、積極的な意見交換や政策提言が行われている。
出典：WalkBoston

実践的提案につながる徹底したデータ分析とアセスメント

課題把握にあたっては、現地踏査に加えて、州や自治体が行っている自動車死亡事故のデータ分析、そして、沿道特性、自動車速度・交通量、信号制御、交差点の見通し、歩道空間など多岐に渡る歩行アセスメントツールが用いられている。また提案では、問題箇所毎に、短期・中期・長期の視点から、リーズナブルで現実的な施設計画・設計が盛り込まれている。これら科学的かつ総合的なアプローチが、行政・住民の信頼を得ることにつながり、活動拡大の推進力になっている。



データ分析とアセスメントは、提案にとどまらず、歩行者保護に対する即効力のある改良（横断歩道、サイン、ゼブラゾーン等）につながっている。
出典：WalkBoston「simple fixes for walkable street」



交通車両の速度抑制に対する措置（fixes）の提案は、交差点や車線の改良等といった中長期的視点からも行われている。
出典：WalkBoston「making streets safe」

Data

面積 2万7,337平方キロメートル(マサチューセッツ州)
人口 マサチューセッツ州 約674.5万人、ボストン市 約65.6万人 (2014年)
カバー自治体数 125自治体(実施自治体) / 351自治体(マサチューセッツ州)

To the Next Phase

これまでの取組みによるデータや知見の蓄積を生かして、交通事故削減の取組みだけでなく、みずから人々がより歩き、健康になるための仕掛けを施したまちづくりの取組みへ、活動の幅を広げている。そのために、コミュニティの形成、世代交流、公共交通との接続といった分野にも関心を広げ、幅広い地域・社会課題への解決を進めている。

